

唯於彼寺偏可祈過去者、是故靈鬼等、其日臨彼寺邊、歟若爾者、夕方臨彼寺大門前、渠邊作呪願、可被投水者也、但餓鬼雖得施水、無飲入腹、所以腹大如甕、咽狹如針穴、若不稱廣博、身如來名號者、無由得飲、是故施水食時、必應稱念彼佛名號、子細難盡、謹言、

〔秋苑日涉〕民間歲節下 七月略○中 十五日謂之中元、爲荷葉餅、士庶互相拜賀、略如歲朝、俗自十四

日至十六日、具麪餌百味、以荷葉貯瓜果、祀先靈、嘍僧尼、展掃墳墓、謂之孟蘭盆、因以中元爲盆節、遂有盆前盆後之稱、略註 十五十六兩日、近郊農戶各鄉結夥、敲鈺擊鼓、來往于市中、或有請延者、則團聚街上、唱佛名、鈺鼓喧闐、殆聒人耳、謂之陸齋、僧尼於水次、豎紙旛、具百味、擊銅鈸、誦經、乞施物於檀越、謂之

施餓鬼、略註 中元後、家家設燈籠、前是市肆、售各色華燈、六稜萬眼、齒苔毬子、人物馬騎、紗絹琉璃品類不一、十六日之夕、城外諸山設火字、略下

〔華實年浪草〕七月上 聖靈祭、靈棚、靈祭、聖靈棚、經、自十四日至十六日、人家設棚安、各位之牌、謂之靈棚、或謂之聖靈棚、祭其靈、謂之靈祭、又謂之聖靈祭、其式載飯器於公卿臺、破子、加牟奈、加計、并供茶、菓、香、華、而祭之、又以鼠、尾、艸、灌、水、而拜之、是謂向水、其家之宗門僧徒來、而誦經於牌前、謂之棚經、孟蘭盆會中、俗謂三方臺、曰公卿臺、倍木是謂加牟奈、加計、是京畿也、掛索、麵、麻、柯、箸、枝、豆、缸、豆、根、芋、青、蕎、麥、秬、米、水、米、瓜、茄子、增山井曰、此類有祭聖靈之意、者可

盆羅、百味、式、眞、三、尊、然、則、新、穀、瓜、果、之、類、皆、百、味、之、義、也、中、略、一、沐、和、尙、歌、山、城、の、瓜、や、茄、子、を、そ、の、ま、い、に、手、向、と、な、れ、や、賀、茂、川、の、み、づ、和

〔東都歲事記〕七月十三日 精靈祭、今日より十六日に、いたる迄、人家聖靈棚を請じて誦經するを、棚經といふ、十三日の夜、迎火として、麻柯を燦く、十六日朝、送火として、又麻がらをたく、の、内、を、俗、盆、中、と、い、ふ、諸、人、先、祖、の、墳、墓、に、詣、つ、盆、の、中、に、托、鉢、の、僧、多、く、來、る、

〔改正月令博物筌〕七月十三日 魂迎、魂、迎、に、燒、く、今、夕、方、に、亡、人、の、聖、佛、家、に、說、多、し、と、て、麻、柯、を、を、り、て、火、焚、き、樁、の、枝、に、て、清、水、を、を、そ、い、ぐ、事、あり、思、ふ、に、火、の、陽、光、を、以、て、天、の、陽、の、魂、を、降、し、水、の、陰、精、に、て、地、の、陰、氣、魄、を、呼、び、の、ぼ、し、て、亡、者、の、魂、魄、を、む、か、ふ、る、を、以、て、蓋、漢、土、の、鬼、神、を、ま、つ、る、式、を、ま、な、ら、び、た、る、も、の、

〔華實年浪草〕七月上 墓參、紀、事、曰、自、朔、日、至、十、四、日、長、賤、各、詣、祖、考、之、墳、墓、

〔大阪繁昌詩〕下 女兒魚貫、彩燈鮮、枯草煙中迎祖、先家廟何煩、繙佛典、古筐捧出誦遺編、